

「やや反対」をそれぞれ合わせて「賛成」と「反対」の2分割で各項目における回答の分布をみる。各項目の回答傾向が「賛成」と「反対」のどちらかに90%以上、あるいは10%以下であれば、分析から削除する。その結果、以下8項目が削除された。

- (4) お年寄りを世話する仕事はそれほど大切ではない
 (6) お年寄りの世話をしていると、もっとがんばって仕事をしなければという気持ちになる
 (8) お年寄り自分では自分ですべきである
 (11) お年寄りの問題は、他の人々の問題に比べてそれほど深刻ではない
 (12) 老人ホームの仕事は同じことの繰り返しで、退屈である
 (14) お年寄りには必要なサービスを受ける権利がある
 (15) お年寄りの世話をすることは、心あたたまる経験である
 (17) お年寄りのお世話をしていると、自分が必要とされていることを痛感する

3 因子分析結果

以上の手順で採用された11項目の因子構造を確

認するために、因子分析を行った。結果は表6である。四つの因子の累積説明率は61.446%であった。それぞれの因子の意味を検討した結果、第1因子は「高齢者を介護する仕事の受け止め方」、第2因子は「高齢者や老人ホーム職員に対する社会的評価や待遇の受け止め方」、第3因子は「援助対象者である高齢者に対する情緒的反応」である。第4因子に対して、10「お年寄りを世話する仕事はだれにでもできる仕事でない」が単独で因子を決定している。1因子1項目では因子の意味内容を解釈する必要はないが、強いていえば、「老人ホーム職員の専門性・独自性の受け止め方」である。

4 項目の信頼性

第4因子を除いて、各因子の内的一貫性信頼性(クロンバック α 係数)はそれぞれ0.6783、0.5797、0.5665である。また、11項目全体の信頼性は0.5726である。

5 介護意識の点数化

介護意識の得点は以下のように算出した。まず、「大いに賛成」、「やや賛成」、「やや反対」、「多いに反対」に4点、3点、2点、1点を与える。反

表6 介護意識の因子分析(バリマックス回転後)

項目	因子1	因子2	因子3	因子4
5 お年寄りの世話を一生懸命やってみてもあまり効果があがらない	.694	.003	.295	-.302
1 お年寄りに接する仕事に、専門的知識や技術はほとんど必要ない	.664	.055	-.288	.088
9 お年寄りを世話しても満足感それほど得られない	.649	-.222	.221	-.383
2 いつも明るい気持ちでお年寄りの世話をすることは難しい	.646	.327	.131	.241
16 お年寄りは当然受けるべき尊敬を受けていない	-.115	.776	-.177	.156
13 老人ホームの職員は社会的に高い評価を受けていない	.126	.685	.200	-.040
3 施設において、お年寄りにはもっとよい生活ができるようにすべきである	-.006	.666	-.094	-.449
19 お年寄りは何をやらせても当然だと思っている	.005	-.299	.774	.012
18 接しにくいお年寄りが多い	.324	.139	.660	.161
7 お年寄りを世話する仕事は気疲れする	-.116	.119	.658	-.271
10 お年寄りを世話する仕事はだれにでもできる仕事でない	.052	.040	.048	-.793
寄与率	22.0%	16.7%	12.5%	10.2%